

# トラック輸送情報（平成16年1月分）

平成16年 4月 5日

国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課

担当：金子、荒木 内線28-315

直通 03-5253-8342

ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

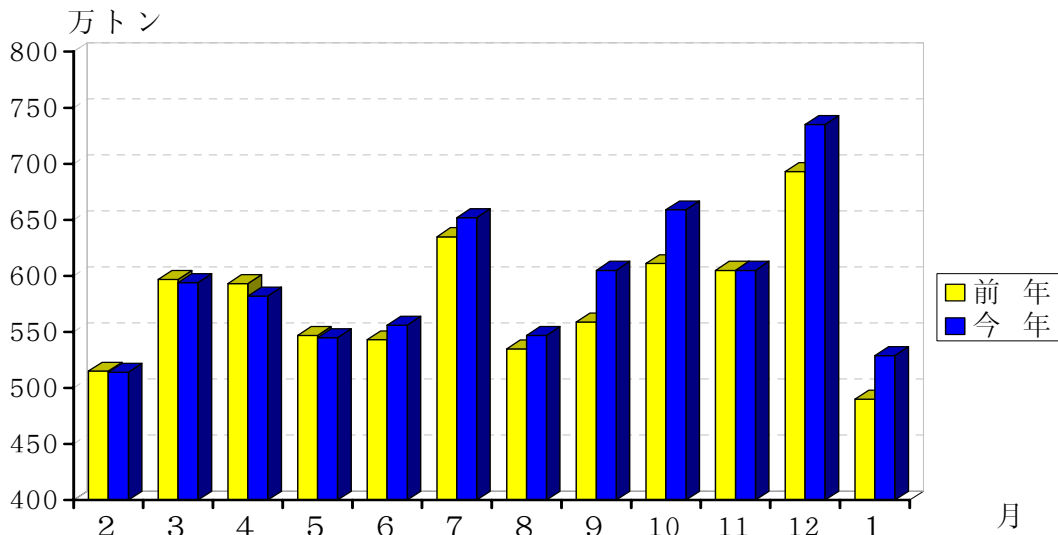
## 1. 特別積合せ貨物

### (1) 本月の輸送状況

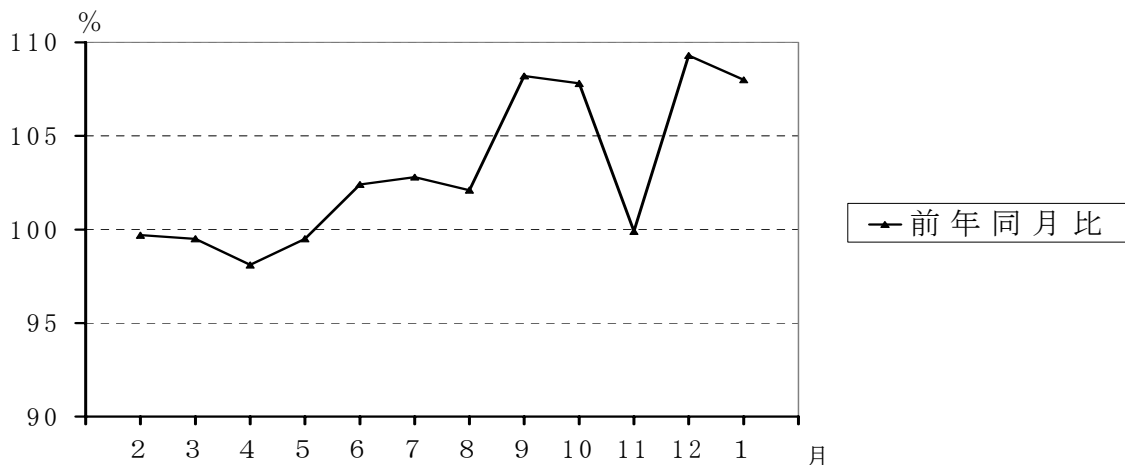
調査対象26社の本月の輸送量は、5,294,332トンで、前月と比べ、総輸送量が約200万トン減少したため、前月比72.1%（季節調整済み103.6%）、前年同月と比べると、約40万トン増加したため、前年同月比108.0%の実績であった。

なお、平均稼働日数は、22.1日で、前月と比べ、1.3日の減少、前年同月と比べると、0.2日の減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、239,563トンで、前月と比べ、約7万トン減少したため、前月比76.3%、前年同月と比べると、約2万トン増加したため、前年同月比107.0%の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）26社の輸送トン数の推移



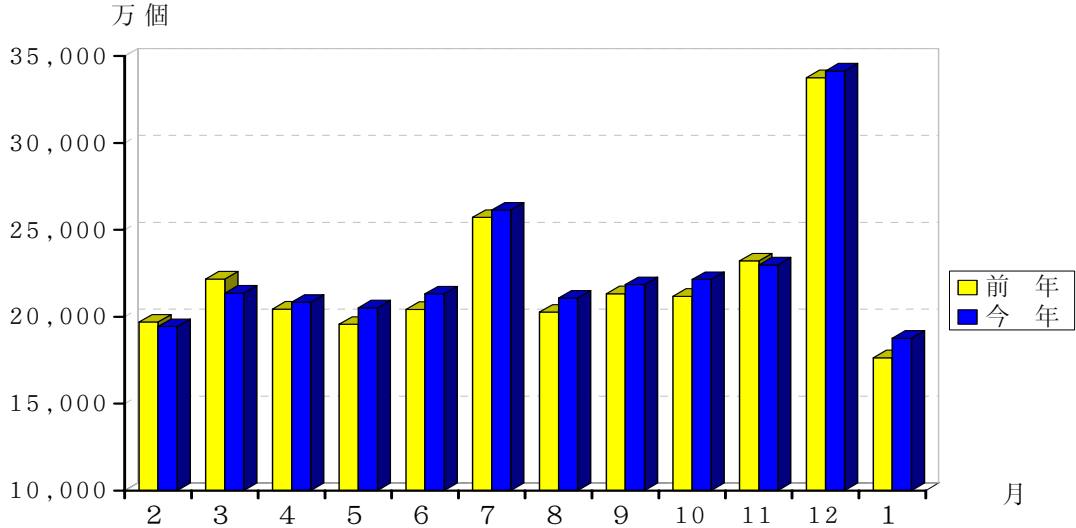
（図1-2）26社の輸送トン数の前年同月比



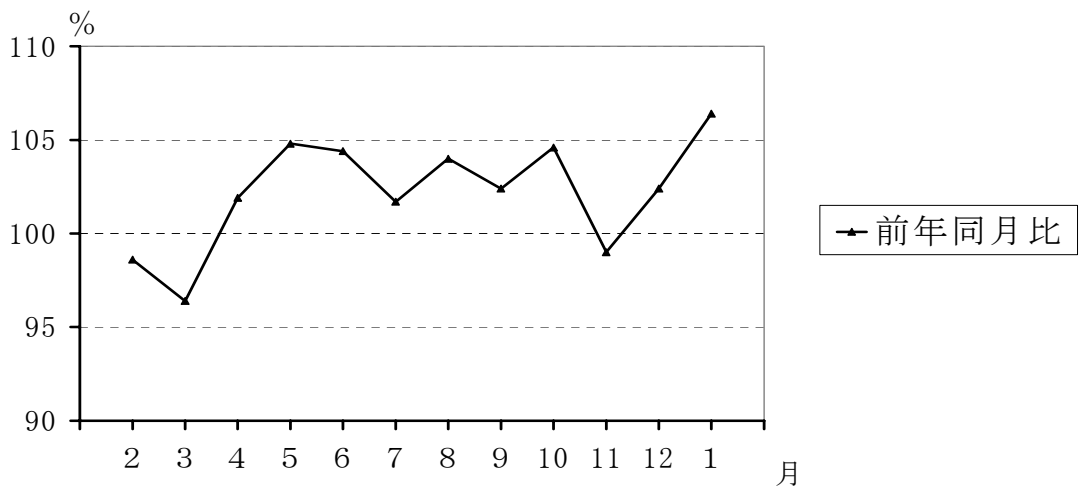
(2) 宅配便の輸送状況

調査対象20社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、187,672千個で、前月と比べ、約15,175万個減少したため、前月比 55.0% (季節調整済み 104.8%)、前年同月と比べると、約1,130個増加したため、前年同月比 106.4%の実績であった。(図2-1、図2-2参照)

(図2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況

本月の輸送は、前月と比べ、稼働日数が1.3日減少し、また、季節的要因、お歳暮期の終了等により、ほぼ全ての品目において大幅な減少傾向にあった。中でも、食料工業品が全国において、季節的な需要減、工場・生産地からの貨物減を主な理由として、日用品が全国において、季節的な需要減を主な理由として減少している。

前年同月と比べると、全ての品目においてほぼ増加傾向にあった。中でも、食料工業品が関東を中心に、商社・問屋からの貨物増や倉庫から出る貨物増等を理由として増加している。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 26社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※増減要因		
	著増	増	変らず	減					
前月に比べて	農水産品		1	11	3	2	野菜	東北・北陸信越・関東	4
								米、野菜、青果物、農産品	北海道・東北・北陸信越・関東
	金属製品		1	12	4	3	金属製品	中国	4
								綿材製品、建築用金属製品	全国
	機械		2	10	7	1	機械製品	北陸信越・関東	4,5,7,8
								機械部品、産業機械、電気製品	全国
	化学工業品		1	12	7	2		東北・北陸信越・関東	4
								化学薬品、塗料	全国
	繊維工業品	1	2	12	5	3	繊維	東北・北陸信越・関東・愛知	4
								織物、繊維	全国
食料工業品		1	7	10	3	製造食品	東北・北陸信越・関東	4	
							製造食品、飲料	全国	4,7,8
日用品			7	10	4				
							玩具、身廻品、書籍、印刷物、衣料	全国	4,5,7,8
その他			9	6	4				
							百貨店配送品、贈答品等	全国	2,4,8
前年同月に比べて	農水産品	1	2	13		1	水産物、青果物、野菜	東北・北陸信越・関東・九州	4, 9
								米、野菜	東北
	金属製品		2	13	4	1	金属製品	北陸信越・東京・近畿・中国	4, 9
								綿材製品、建築用金属製品	北陸信越・関東・大阪
	機械		4	14	2		機械部品	全国	1,4,9
								電気機械、機械部品	関東・大阪・中国
	化学工業品		3	16	3		塗料、化学肥料	北陸信越・関東・近畿	4,5,7,8,9
									関東
	繊維工業品	1	4	12	6		繊維	全国	4, 9
								糸、繊維製品	関東・中部・中国
食料工業品		5	15	1		飲料、製造食品	北陸信越・関東・近畿・四国	5, 7	
日用品	1	6	7	7		身廻品、書籍、印刷物	全国	4,5,7,9	
							衣類・文具、書籍、印刷物	全国	4,5,7,9
その他		4	11	4		百貨店配送品	全国	2,4,5,9	
							贈答品等	東北・北陸信越・関東	9

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

※増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2. 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 863社 / 調査対象事業者数 1,073社）の輸送量は、前年同月比100.3%、前月比87.7%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	100.3%	98.6%	97.3%	97.9%	104.9%	103.0%	98.5%	102.9%	99.7%	102.4%	107.0%
前 月 比	87.7%	89.7%	83.0%	89.8%	85.3%	90.5%	87.5%	87.9%	89.5%	86.6%	86.2%

### (2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	異常気象による「廃棄物(排雪)」の需要が増加したが、季節的な要因による公共工事の減少に伴う関連品目の輸送減、正月休み等による稼働日数の減少もあり、全体的に低調に推移したため、対前月比89.7%となった。また対前年同月比も98.6%であった。 今後の輸送見通しについては、次月及び以降共に上昇傾向にある。
東北	お歳暮期の終了ということもあり、「取り合せ品」「食料工業品」の輸送量減少や、現場の正月休みにより「セメント」「木材」「砂利・砂・石材」等の減少が目立った。また、正月休暇による全体的な稼働日数の減少に伴い輸送量も減少している様である。このため、対前月比は83.0%、対前月同月比は97.3%となった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともに下降傾向にある。
関東	お正月用品の需要がなくなったことにより「日用品」の減少が見られ、また、1月は休日・祝日が多いことによる稼働日数減もあり、対前月比89.8%と大きく減少した。対前年同月比も97.9%と減少した。今後の見通しについては、次月・以降とも減少傾向にあり厳しい状況が続くと思われる。
北陸信越	年始休暇が長期に渡ったため、対前月に比べて輸送トン数が落ち込んだ。品目別では、冬期のため飲料などの「食料工業品」の減少が目立った。また、積雪期のため土木工事関係品目の輸送減もみられた一方で、排雪輸送により「廃棄物」の輸送がみられた。このため、対前月比は85.3%となった。また、対前年同月比は104.9%と増加している。 今後の輸送見通しについては、次月及び以降共に増加傾向にある。
中部	年末繁忙期を過ぎたこと、また正月休みの影響による稼働日数減等により全体の輸送量が減少している。品目では「機械」や年末年始等用の「日用品」の輸送減が目立った。このため、対前月比は90.5%となった。対前年同月比は、一部事業者で新規荷主獲得の影響があったこともあり、103.0%と増加した。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向にある。
近畿	年末需要の終了や年始の休業もあって大きく減少している。品目別に見ると「取り合せ品」「食料工業品」「日用品」はお歳暮需要の終了等により減少が目立っている。他にも「紙・パルプ」「機械」「その他の石油製品」も減少している。このため、対前月比は87.5%、対前年同月比も98.5%とともに減少した。 今後の輸送見通しについては、次月がほぼ横ばい、以降は上昇傾向になるものと思われる。
中国	休日や、お歳暮シーズンの終了により、前月よりも全体の輸送量は下がっている。また、積雪がある山陰地方については、工事の中断等により建築土木関連品目の輸送量も伸びていない。このため対前月比は87.9%となった。一方で対前年同月比は102.9%と増加した。 今後の輸送見通しについては、次月は減少傾向、以降はほぼ横ばいにある。
四国	正月休み等で稼働日数が少なかったこともあり、対前月比は89.5%と大きく減少した。特に「野菜・果物(みかん)」は収穫期の最盛期を過ぎたため、「取り合わせ品」は年末需要の反動等によるものである。また、対前年同月比は99.7%とほぼ横ばいであった。 今後輸送の見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は微増傾向である。
九州	正月休みに伴う稼働日数の減少や一部地域での降雪による障害等により、多くの品目において輸送量が減少し、対前月比は86.6%となった。特に年末商戦の需要増により輸送量の増加が見られた「食料工業品」「取り合せ品」は、今月に入って需要が落ち込んでいる。対前年同月比は102.4%であった。今後の輸送の見通しとしては、稼働日数が少ない2月は減少傾向にあるものの、それ以降は春に向けて増加の兆しが見られる。
沖縄	年始休暇により車両の稼働が低下し、また貨物全般において需要の落ち込みがみられた。特に、混載貨物などの「取り合わせ品」、マグロ等の「水産品」、切り花等の「その他の農産品」の輸送需要低下が目立った。このため、対前月比では86.2%、対前年同月比では107.0%となった。 今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい以降は増加傾向にある。

## (3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数をとりました。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増	0	1	0	0	0	2	0	1	1	0	5
	減	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0	4
2. 野菜・果物	増	1	0	1	0	0	0	0	0	4	0	6
	減	3	2	1	1	0	2	0	3	4	0	16
3. その他の農産品	増	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	3	0	1	0	1	0	1	1	0	1	8
4. 畜産品	増	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	1	1	0	0	0	1	2	0	2	0	7
5. 水産品	増	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
	減	2	0	0	0	1	1	1	1	0	1	7
6. 木材	増	0	0	0	1	0	0	1	0	2	0	4
	減	5	3	0	0	0	0	0	0	1	0	9
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	減	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
9. 金属鉱物	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
10. 砂利・砂・石材	増	1	1	0	1	0	0	3	0	3	0	9
	減	12	3	0	4	0	0	1	0	4	0	24
11. 工業用非金属鉱物	増	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3
	減	4	3	0	0	0	0	0	0	1	0	8
12. 鉄鋼	増	0	1	0	0	1	1	2	1	0	0	6
	減	1	1	1	1	2	1	2	0	0	0	9
13. 非鉄金属	増	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	3
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
14. 金属製品	増	0	1	0	0	0	1	1	1	2	1	7
	減	2	1	0	2	0	0	0	0	2	0	7
15. 機械	増	0	0	2	0	0	0	0	0	3	0	5
	減	0	0	2	2	3	2	2	0	4	1	16
16. セメント	増	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	3
	減	4	3	0	1	0	1	2	0	3	0	14
17. その他の窯業品	増	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	減	0	2	0	1	1	0	2	2	1	0	9

